

環境法政策レポート

DAIKAN

CONTENTS	「環境法政策を読む」	… 1
	2014年7月25日から2014年8月24日までに公布された主な環境法令	… 3
	2014年7月25日から2014年8月24日までに公表された今後施行を予定されている主な環境法令	… 3
	2014年7月25日から2014年8月24日までの主な行政情報	… 3
	2014年7月25日から2014年8月24日までの主な裁判情報	… 6
	2014年7月25日から2014年8月24日までの主なニュース	… 7

「環境法政策を読む」自動車リサイクル法施行状況

中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会
第32回合同会議

21日の合同会議は、自動車リサイクル法の施行状況等についての報告と、制度見直しの時期を迎えての制度のあり方についての検討の第1回となった。今後、次の3つの観点からヒアリング及び論点整理、方向性についての検討を行い、来年1月以降に報告書を取りまとめる予定である。

- ① 自動車における3Rの推進・質の向上
- ② 自動車リサイクル制度の安定的かつ効率的な運用
- ③ 今後の自動車リサイクル制度のあるべき姿

□ 平成25年度自動車リサイクル法の施行状況（概要）

（1）自動車メーカー等による再資源化等の実施状況

①平成25年度 使用済自動車引取台数 343万台（H24年度：341万台、H23年度：296万台）

②自動車メーカーの3品目の引取状況

品目	フロン類	エアバッグ類	ASR
引取報告件数	2,911,189	2,273,857	3,174,446

③平成25年度 再資源化状況 <リサイクル率(%)>

	シュレッダーダスト	エアバッグ類
基準	30(平成17年度～)、50(平成22年度～)、70(平成27年度～)	85
H25年度実績	96～97.7	94～95

（2）自動車リサイクル法の事業者登録・許可の状況（平成25年度末時点）

引取業者	フロン類回収業者	解体業者	破碎業者	合計
42,281	12,408	5,687	1,194	61,570

「環境法政策を読む」自動車リサイクル法施行状況

(3) リサイクル料金の預託状況

①平成 25 年度預託別実績

	新車登録時	引取時	合計
預託台数	5,694,273	116,729	5,811,002
預託金額(千円)	60,609,602	577,851	61,187,452

②預託台数及び預託金額残高

預託台数(台)	預託金額残高(千円)
77,913,136	835,191,063

③輸出返還の状況 (平成 25 年度)

輸出による返還台数(台)	預託返還金額(千円)
1,331,625	16,168,539

(4) 不法投棄対策、不適正保管及び離島対策の状況

①不法投棄・不適正保管実績 (平成 25 年度末累計)

- ・全国の不法投棄・不適正保管車両は、**7,354** 台と横ばい (前年度末比 **14** 台増)。
- ・**100** 台以上の大規模案件はやや減少。(6 件、**1,176** 台 ; 前年度末比 **49** 台減)

②離島対策の実績

- ・平成 25 年度は、**88** 市町村における、**22,919** 台の処理に対し支援を実施。
- ・平成 26 年度は、**82** 市町村における、**26,209** 台の処理への支援を計画。

□ 使用済自動車用鉛蓄電池のリサイクル (自主スキームの運用状況)

平成 24 年 7 月本格運用開始の自主スキームは、平成 26 年 5 月末で排出事業者 (販売店等) が **7,554** 件。平成 25 年度実績は、リサイクル処理件数 **35,685**、処理量 **13,717** トン、処理費用 **575.2** 百万円と着実に進展している。課題となっている離島からの回収方法の検討の準備として離島の現状調査が実施された。今後、具体的な回収ルートを設定し、登録排出事業者から無償で引き取りを行っていく。

【委員からの主な意見】

- 自動車リサイクル法の仕組みは、環境配慮設計に影響を与えているとはいえない。⇒脱フロン化、エアバッグの一括展開の ISO 化など、環境配慮設計を目指した取組の成果はあがっている。
- リサイクル率が **100%** に近付いているが、質や基準について適切なものか検討するべき。
- 資源の有効利用の観点から、たとえば廃バッテリーについて、SBRA 自主スキーム以外のルートに回っている部分のフローを把握し、有害性の管理も行うべき。

■ 事業者における留意点

前回の検討の際には、「不法投棄対策やリサイクル率の向上等、法の目的が達成されているか」「義務者・関連事業者が法令上の責務を適切に履行しているか」など、自動車リサイクル制度自体の点検が主な目的であった。今回は、**3R** の推進・質の向上、制度の安定的かつ効率的な運用といった観点で審議が進められる。**1** 回目として、自動車リサイクル制度の「執行状況と高度化・効率化に向けた取組」、及び「施行状況の評価・検討に関する報告書 (H22 年 1 月)」の個別課題への具体的な対策のフォローアップ状況についての審議が行われた。今後の自動車リサイクル制度のあるべき姿がどのような方向性を目指すのか、事業者として議論の趨勢を注視していく必要がある。